ダイズの病害虫防除対策（８月）

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがあります。独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html）等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和2年7月14日現在）

紫斑病

（１）薬剤防除はダイズの開花後 20～40 日後に 1～2 回実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するようにしてください。

（２）収穫が遅れると発生が多くなるため、適期収穫を励行してください。また、収穫後に高水分のままで放置すると紫斑粒が増加するので、収穫後はすみやかに乾燥、脱穀を行ってください。

表１　紫斑病の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10a当たり使用量(散布液量)(注)	使用回数の制限※
ベルクート水和剤	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07	収穫７日前まで	1,000倍（150～300L）	4回以内
スミチオンベルクート粉剤DL	MEP	1B	開花期～若莢期（但し、収穫21日前まで）	3kg	4回以内
	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07			
Zボルドートレボン粉剤DL	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	3A	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
	銅	M01			

※　使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。
- イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、種子粉衣は1回以内)
- ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：4回以内
- エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内

べと病

（１）本病は降雨の多い 6～7 月と 9 月に多発し、発生が多いと生育抑制や落葉が見られます。

（２）べと病は密植や過繁茂で通気性が悪く、湿度が高いと発生が多くなりやすいので注意してください。

（３）薬剤防除は発生初期から 7～10 日おきに数回実施しましょう。

表２　べと病の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10a 当たり使用量（散布液量）(注)	使用回数の制限※
アミスター20 フロアブル	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	C3	収穫 7 日前まで	2,000 倍（150～300L）	2 回以内
フェスティバルＭ水和剤	ｼﾞﾒﾄﾓﾙﾌ	H5	収穫 45 日前まで	750 倍（150～300L）	3 回以内
	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ	M03			
ライメイフロアブル	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	C4	収穫 7 日前まで	2,000 倍（150～300L）	3 回以内
ランマンフロアブル	ｼｱｿﾞﾌｧﾐﾄﾞ	C4	収穫 7 日前まで	1,000～2,000 倍（150～300L）	3 回以内
リドミルゴールドMZ	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ	M03	収穫 45 日前まで	500 倍（150～300L）	3 回以内
	ﾒﾀﾗｷｼﾙM	A1			

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。
- アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数：2 回以内
- ジメトモルフを含む農薬の総使用回数：3 回以内
- マンゼブを含む農薬の総使用回数：3 回以内
- アミスルブロムを含む農薬の総使用回数：4 回以内（但し、種子への処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）
- シアゾファミドを含む農薬の総使用回数：4 回以内（但し、種子への処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）
- メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数：4 回以内（但し、種子粉衣及びは種前の塗抹処理は合計 1 回以内、は種後は 3 回以内）

ウコンノメイガ

（１）ダイズの生育が旺盛で葉色が濃く、株が繁茂しているほ場で、幼虫による葉巻被害が多くなる傾向があります。ほ場によって発生状況の差が大きいので、よく確認してください。

（２）葉巻の発生が目立つ場合は、若齢幼虫の多い７月下旬～8 月上旬に薬剤散布を実施してください。

表３　ウコンノメイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10ａ当たり使用量（散布液量）	使用回数の制限※
サイアノックス粉剤	CYAP	１Ｂ	収穫7日前まで	4kg	2回以内
スミチオン乳剤	MEP	１Ｂ	収穫21日前まで	1,000倍（100～300L）	4回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ＣＹＡＰを含む農薬の総使用回数：2 回以内

・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：4 回以内

吸実性カメムシ類

（１）ダイズの開花期以降に飛来し、収穫期まで長期にわたって加害します。子実肥大の初期に吸汁されると子実がほとんど肥大しません。中期以降に吸汁されると変形、変色した子実となり、商品性が著しく低下します。

（２）防除は、着莢期～子実肥大期に 1～2 回薬剤散布を行ってください。

表４　吸実性カメムシ類の防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10ａ当たり使用量（散布液量）	使用回数の制限※
アルバリン顆粒水溶剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫7日前まで	2,000倍（100～300 L）	2回以内
スタークル液剤10	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫7日前まで	1,000倍（100～300 L）	2回以内
スタークル顆粒水溶剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫7日前まで	2,000倍（100～300 L）	2回以内
スミチオン乳剤	MEP	１Ｂ	収穫21日前まで	1,000倍（100～300 L）	4回以内
ダントツフロアブル	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	４Ａ	収穫7日前まで	2,500～5,000倍（100～300 L）	3回以内
トレボン乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	1,000倍（100～300 L）	2回以内
MR. ジョーカー粉剤DL	ｼﾗﾌﾙｵﾌｪﾝ	３Ａ	収穫7日前まで	4kg	2回以内
スミチオンベルクート粉剤DL	MEP	１Ｂ	開花期～若莢期（収穫21日前まで）	3kg	4回以内
	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07			
Zボルドートレボン粉剤DL	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
	銅	M01			

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ジノテフランを含む農薬の総使用回数：3 回以内（但し、は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内）

・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：4 回以内

・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：4 回以内（但し、は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内）

・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：2 回以内

・シラフルオフェンを含む農薬の総使用回数：2 回以内

・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：4 回以内（但し、種子粉衣は 1 回以内）

マメシンクイガ

（1）ダイズを連作すると発生量が増加することから3年以上の連作は避けて、田畑輪換を行ってください。

（2）成虫は年1回、8月中旬頃に羽化します。日長時間に反応して発生するため、発生時期は大きく変動しません。8月5半旬頃の防除を基本とし、多発が予想される場合には9月1～2半旬にも追加防除を行ってください。

表5　マメシンクイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10ａ当たり 使用量（散布液量）	使用回数 の制限※
サイアノックス乳剤	CYAP	1Ｂ	収穫7日前まで	1,000倍 (100～300 L)	2回以内
ダイアジノン粒剤5	ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ	1Ｂ	収穫30日前まで	4～6kg	4回以内
スミチオンベルクート粉剤DL	MEP	1Ｂ	開花期～若莢期 (収穫21日前まで)	3kg	4回以内
	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07			
Zボルドートレボン粉剤DL	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	3Ａ	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
	銅	M01			

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ＣＹＡＰを含む農薬の総使用回数：2回以内

・ダイアジノン：6回以内（種子粉衣は1回以内、粒剤は5回以内（生育期の処理は4回以内））

・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：4回以内

・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、種子粉衣は1回以内)

・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内